

「県立病院が担うべき医療」のあり方についての検討

資料9-1

1 保健医療環境の概況

- 医療福祉にかかる現状と課題（滋賀県保健医療計画より）
- (1) 少子高齢化の進展・人口減少のはじまり
 - (2) 健康に対する意識の高まり
 - (3) 医療のあり方の変化
⇒病床機能の分化、医療介護従事者の確保・養成、ICT利活用 等
 - (4) 医療福祉従事者の不足・地域偏在
⇒医師数は増加傾向、地域偏在により確保が困難な地域も存在
 - (5) 社会保障費の増大
 - (6) 医療福祉に関する県民意識
⇒8割以上が高齢期の生活に不安



今後の課題等

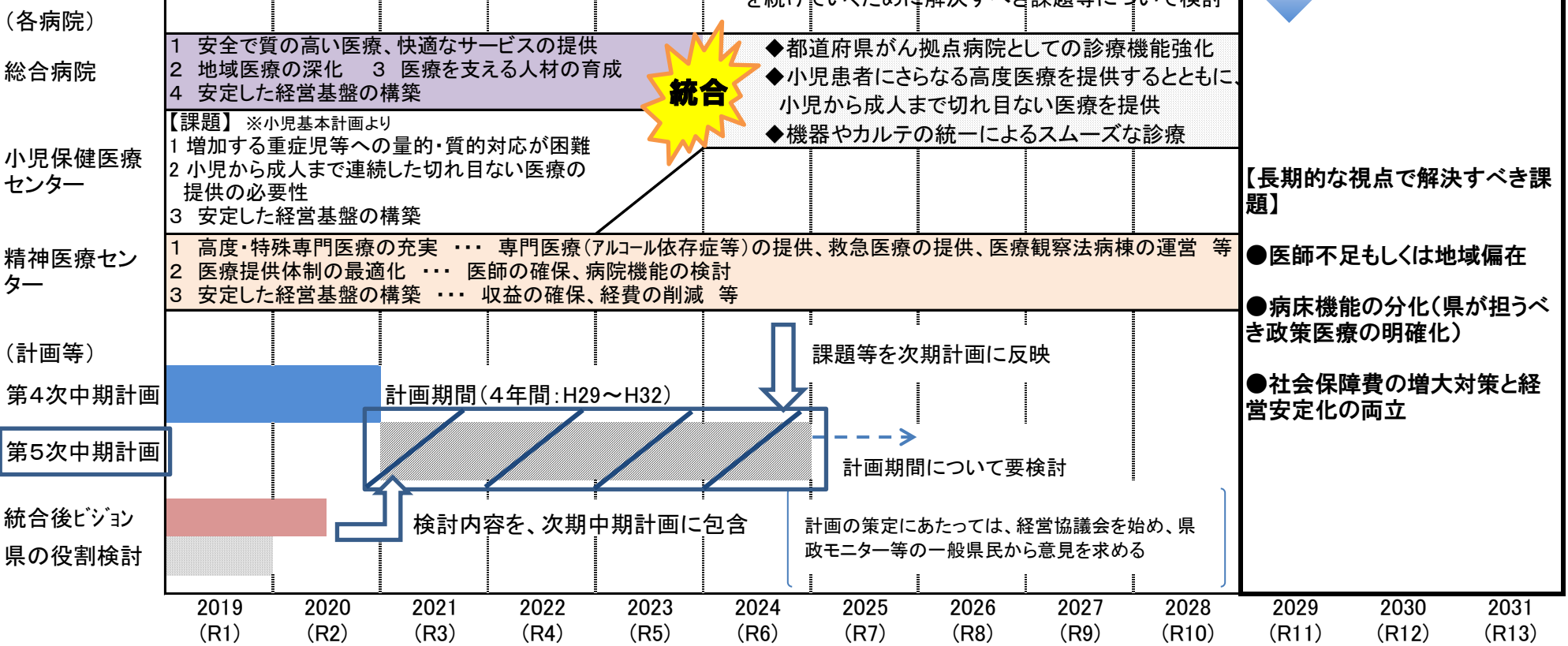
医療ニーズ

- ・2025年問題、2040年問題：急性期の医療需要は2035年頃まで増加が見込まれる
- ・5疾患（がん、脳卒中、心血管疾患、糖尿病、精神疾患）への対応が更に重視される
- ・小児重症患者の増加が見込まれる
- ・今後は患者のQOLが更に重視される

医療提供体制

- ・医師等の働き方改革
- ・医師・医療技術職、看護師等の人材確保
- ・地域医療構想の実現

2 主な取組等



県立病院が担うべき役割について

病院事業庁経営管理課

推計人口および医療需要の推計(その1)

<将来の見通し>

平成22年(2010年)人口を基準に推計された本県の推計人口は、平成27年(2015年)頃をピークに減少に転じ、平成52年(2040年)には130万9千人となり、平成22年(2010年)の人口の92.8%になると推計されています。(平成31年は1,484人の増)

また、平成17年(2005年)から、65歳人口(老年人口)割合は15歳未満人口(年少人口)割合を上回っており、今後更に、老年人口割合は増加し、年少人口割合は減少することが見込まれます。

(滋賀県保健医療計画より)

<医療需要の推移>

医療需要の把握にあたっては、平成37年(2025年)までの急激な変化を念頭に置きながら、同時に、その先の平成47年(2035年)頃までも視野に入れる必要があると考えられます。

- ・高度急性期機能は、平成37年(2025年)まで増加、その後横ばい
- ・急性期機能は平成47年(2035年)まで増加、その後横ばい

(滋賀県地域医療構想より)

図 医療機能別医療需要の推移 [単位：人/日]

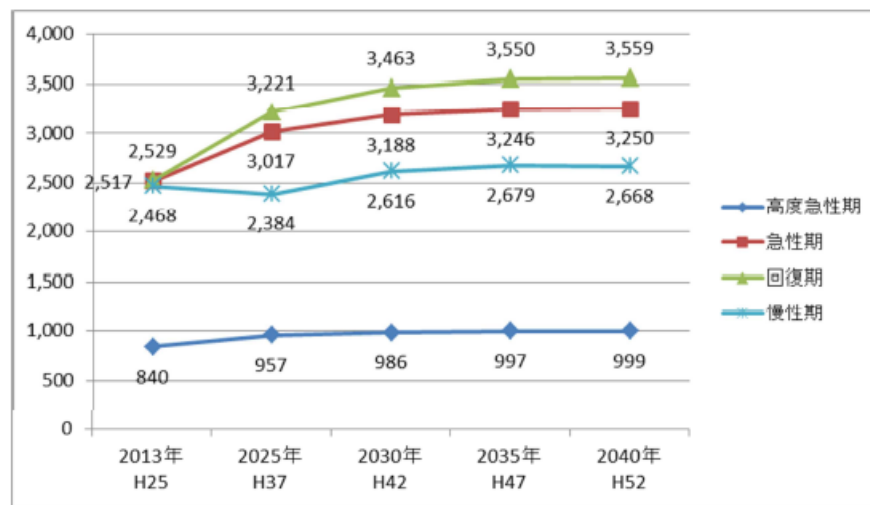
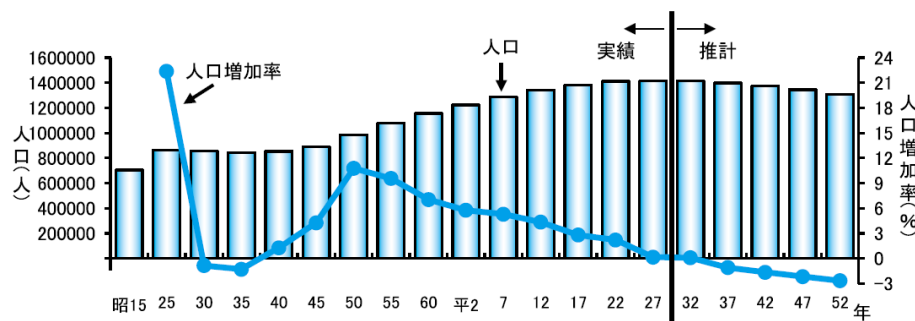


表 医療機能別医療需要の推移 (平成25年(2013年)からの増減率：倍)

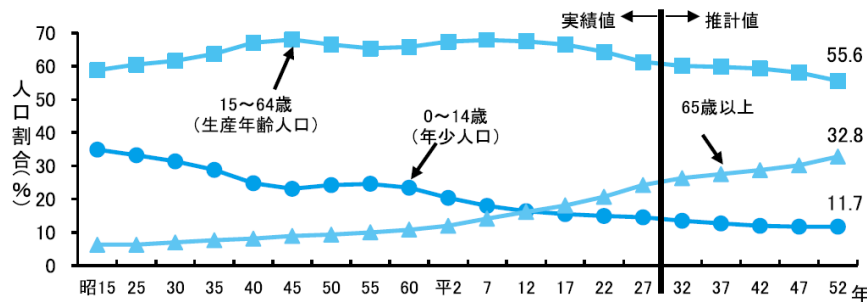
	2025 H37	2030 H42	2035 H47	2040 H52
高度急性期	1.14	1.17	1.19	1.19
急性期	1.20	1.27	1.29	1.29
回復期	1.27	1.37	1.40	1.41
慢性期	0.97	1.06	1.09	1.08

図1-2-2-1 人口および人口増加率の推移



出典：「国勢調査」平成27年(2015年)(総務省)
「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)

図1-2-2-2 年齢3区分別人口の割合の推移



出典：「国勢調査」平成27年(2015年)(総務省)
「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)

推計人口および医療需要の推計(その2)

<年齢区分別の医療需要>

高齢化の進展に伴い、各機能とも65歳以上、75歳以上の需要増が顕著です。

特に急性期の増加数は65歳以上で574人/日、75歳以上で558人/日、回復期の増加数は65歳以上で732人/日、75歳以上で712人/日と大幅な増加が見込まれます。慢性期では、75歳以上のみ増加する見込みとなっています。

一方で、年少人口(0歳~14歳)、生産年齢人口(15歳~64歳)の需要は、いずれの機能も減少傾向となっています。

(滋賀県地域医療構想より)

表 年齢区分別の医療需要 [単位: 人/日]

	医療機能	年齢区分	2013年度	2025年	医療需要 増減 (人/日) ②-①
			医療需要 (人/日)①	医療需要 推計 (人/日)②	
滋賀県	高度急性期	0-14歳	102	70	-32
		15-64歳	252	237	-15
		65歳以上	471	635	164
		75歳以上	286	435	149
	急性期	0-14歳	146	109	-37
		15-64歳	762	726	-36
		65歳以上	1,593	2,167	574
	回復期	15-64歳	561	515	-46
		65歳以上	1,951	2,683	732
		75歳以上	1,447	2,159	712
	慢性期	15-64歳	450	387	-63
		65歳以上	1,997	1,979	-18
75歳以上		1,704	1,752	48	

※医療機関所在地ベース ※75歳以上は再掲
※回復期、慢性期の「0-14歳」はすべての区域で10人/日未満のため非公表

<主な疾患別の医療需要>

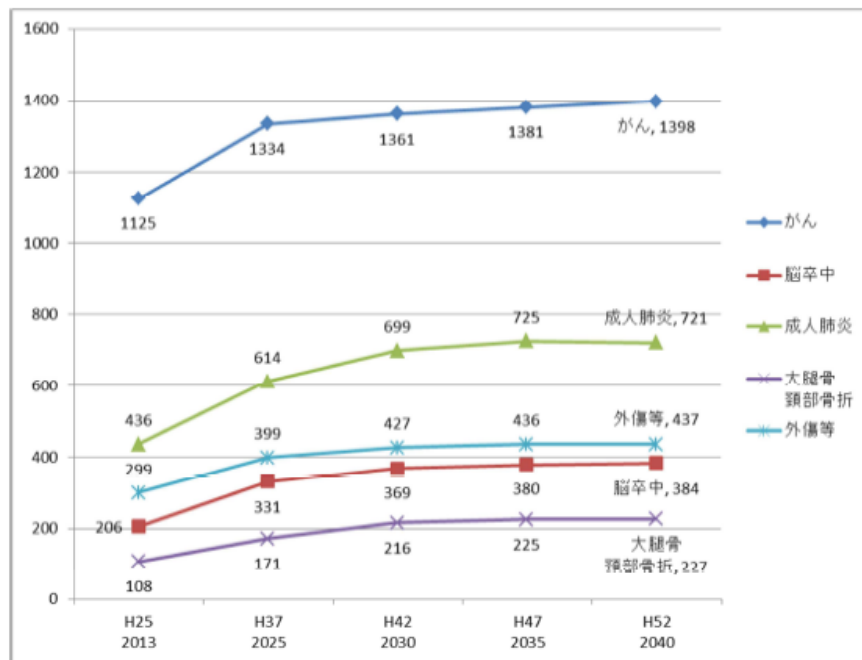
入院患者の疾患で最も多いのは、がんです。がんによる入院需要は、平成25年(2013年)の1,125人/日に対して、平成37年(2025年)は1,334人/日で、209人/日(18.5%)の増加となっています。

今後の高齢化の進展に伴い、がんをはじめとする主な疾患は、増加傾向で推移していく見込みです。特にがんは高い需要が維持されます。

また、脳卒中、成人肺炎、大腿骨頸部骨折など、比較的高齢者に多い疾患は、今後、平成37年(2025年)にかけての増加率が高いことが特徴として現れています。

(滋賀県地域医療構想より)

図 主な疾患別医療需要の推移 [単位: 人/日]



※医療機関所在地ベース ※慢性期はデータなし
※二次医療圏の各医療機能で10人/日未満の数値は含まない

医師確保の状況

平成28年末現在の本県の医師数(医療機関従事者のみ)は3,121人で人口10万人あたりの医師数は220.9人であり、全国平均の240.1人よりも少なく、全国33位となっています。また、二次保健医療圏ごとに見ても、大津保健医療圏域以外は全国平均を下回っています。

診療科における地域偏在も存在し、特定の診療科において、ひとつの病院だけでは医師を確保することが困難なため、近隣の病院と連携して診療体制を維持している地域もみられます。

(主な)診療科別医師数									
診療科名	平成26年				平成28年				H28全国順位
	滋賀県		全国		滋賀県		全国		
	総数	人口10万対	総数	人口10万対	総数	人口10万対	総数	人口10万対	
呼吸器外科	39	2.8	1,772	1.4	35	2.5	1,880	1.5	4位
病理診断科	22	1.6	1,766	1.4	28	2.0	1,893	1.5	5位
小児科	229	16.2	16,758	13.2	224	15.9	16,937	13.3	7位
血液内科	27	1.9	2,534	2.0	30	2.1	2,650	2.1	19位
消化器内科	161	11.4	13,805	10.9	170	12.0	14,236	11.2	19位
循環器内科	151	10.7	11,992	9.4	151	10.7	12,456	9.8	17位
婦人科	14	1.0	1,803	1.4	16	1.1	1,805	1.4	28位
呼吸器内科	52	3.7	5,555	4.4	52	3.7	5,987	4.7	33位
整形外科	211	14.9	20,996	16.5	212	15.0	21,293	16.8	35位
皮膚科	78	5.5	8,850	7.0	78	5.5	9,102	7.2	41位
精神科	126	8.9	15,187	12.0	128	9.1	15,609	12.3	43位
消化器外科	35	2.5	4,934	3.9	30	2.1	5,375	4.2	43位
肛門外科	2	0.1	432	0.3	2	0.1	443	0.3	45位
計(医療機関従事者)	2,997	211.6	296,845	233.6	3,121	220.9	304,759	240.1	33位

医師・歯科医師・薬剤師調査(厚生労働省)

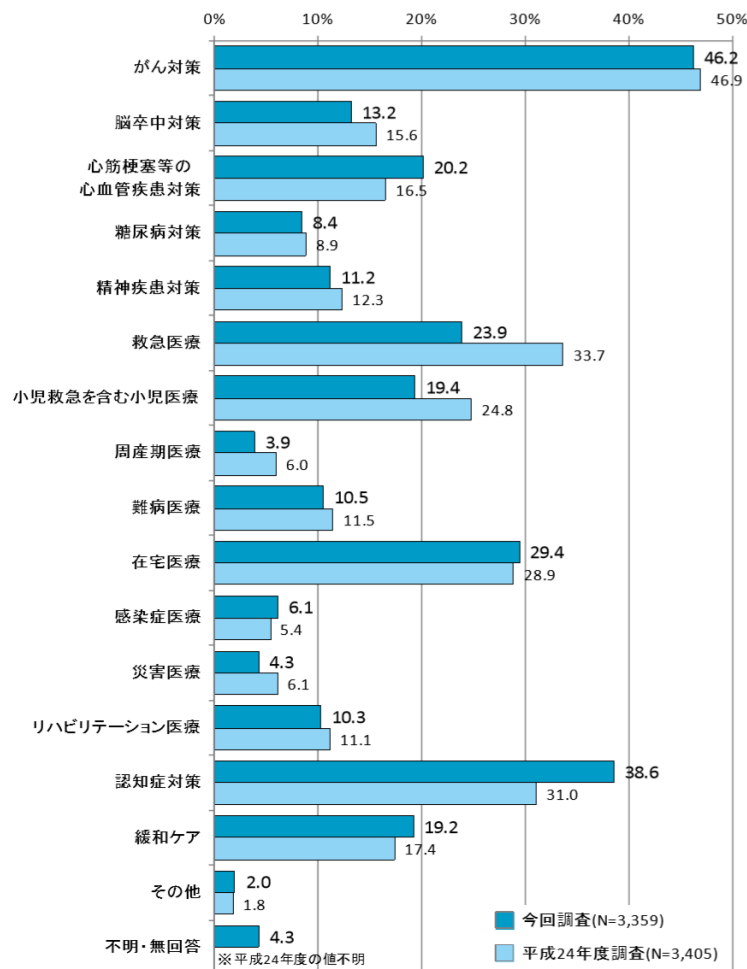
県内医療における県立病院の役割・機能

<医療福祉に関する県民意識>

○今後充実してほしい医療分野

「滋賀の医療福祉に関する県民意識調査(平成29年1月実施)」の結果によると、今後充実を望んでいる医療分野では、多い順から「がん対策」、「認知症対策」、「在宅医療」、「救急医療」、「心筋梗塞等の心血管疾患」となっています。

図1-2-8-1 今後充実してほしい医療分野



○高齢期の生活の不安

また、自分の高齢期(概ね65歳以上)の生活に不安を感じているかどうかでは、「感じている」とした人が8割以上となっており、前回調査(平成24年度)より4.9ポイント増加しています。(前回78.2%)

図1-2-8-2 高齢期の生活の不安

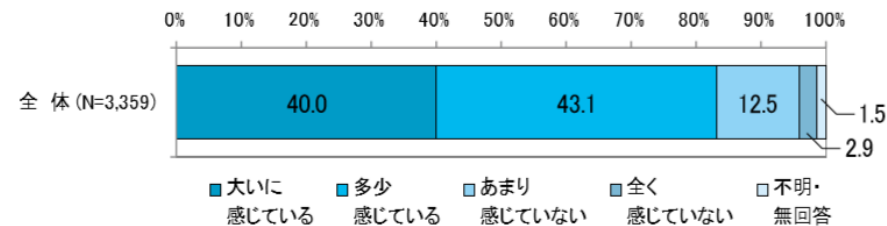
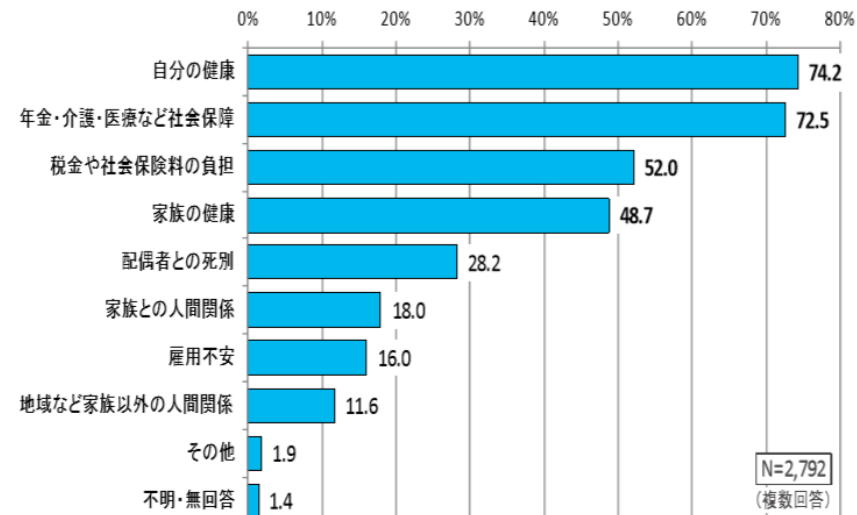


図1-2-8-3 高齢期の生活の不安の内容



(滋賀県保健医療計画より)

総合病院 が担っている役割・機能

<がん・心疾患・脳血管疾患等を中心とした医療提供体制の充実>

○保健医療計画に掲げる医療機能の充実を図るための取組を推進します。

- ・県立の急性期医療機関として、がん、心疾患、脳血管疾患等の生活習慣病に対する高度専門医療を提供するとともに、運動器の障害や認知症など、複合的に生じる様々な疾患にも対応し、安全で質の高い医療を提供します。
- ・がん診療に関しては、都道府県がん診療連携拠点病院として引き続き全県のがん診療の質の向上と均てん化を推進するとともに、地域のがん診療の中核的医療機関としての機能を発揮します。
- ・地域医療支援病院として、急性期から回復期、在宅への切れ目のない医療の提供に向けて、地域医療構想を踏まえながら病床機能を最適化しつつ、地域の医療機関との役割分担と連携の強化を図るとともに、地域の医療機関の人材育成を支援します。

○一方で、経営状況としては、収益、費用ともに増加傾向にあります。平成14年度の病棟建設以降赤字が続き、平成24年度に黒字に転じたものの、平成27年度から再び赤字となっています。

○このことから、都道府県がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院としての役割を踏まえながら、限られた資源を効果的に活用するため、これまで以上に担うべき機能を重点化していく必要があります。

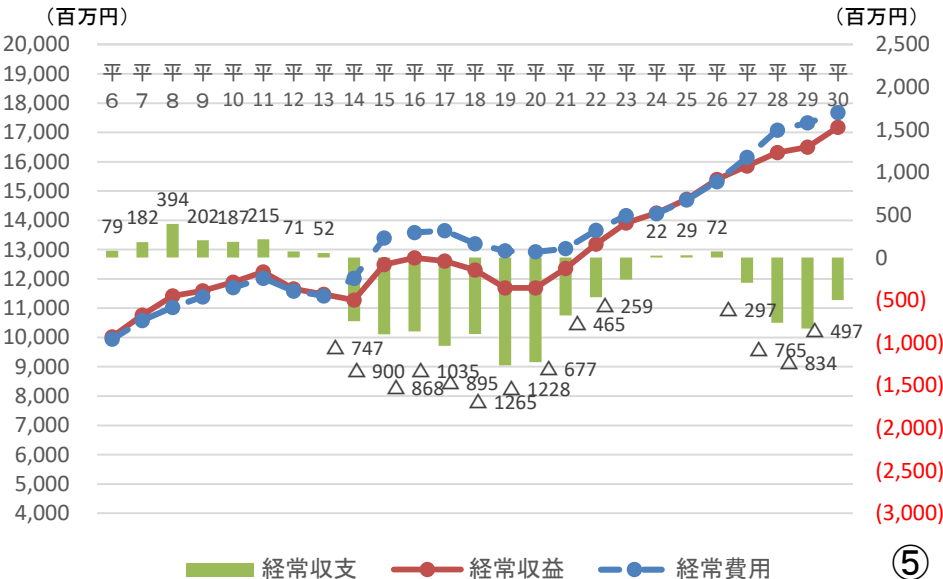
○がん患者主要紹介元医療機関動向

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
近江八幡	31	64	86	74	77	63	75	117
済生会	43	80	61	66	64	74	67	59
野洲病院	31	55	41	39	35	30	41	40
守山市民	25	41	39	27	36	40	36	56
滋賀医大	21	41	25	44	58	30	28	51
加藤乳腺	9	51	57	48	27	26	34	31
大津日赤	10	17	27	30	34	14	13	47
彦根市民	9	18	21	15	18	17	19	19
井上クリニック	18	18	23	14	20	15	22	24
山崎病院	9	23	30	9	15	18	13	17
公立甲賀	10	16	28	15	12	9	18	10
京大付属	18	13	13	11	16	18	13	12
草津総合	6	21	12	10	18	18	14	15
高島市民	4	17	9	15	10	22	16	25

○地域連携の状況

	H26	H27	H28	H29	H30
紹介率	55.8%	66.8%	68.4%	79.3%	82.1%
逆紹介率	49.2%	47.8%	58.1%	62.8%	59.6%

○経常収支の推移



小児保健医療センター が担っている役割・機能

《子どもの健やかな心身の成長・発達に向け、生きる力を支援する》

- ・心身障害児、小児慢性疾患や難治性疾患に対する高度専門的かつ包括的医療の充実、強化および全県的医療の提供。
- ・在宅療養を支援するため、家族の負担を軽減する短期入院の受入および地域の医療機関や訪問看護ステーションとの連携。
- ・地域連携システムの構築など、小児期から成人期へ切れ目なく移行できる体制づくり。
- ・健やかな子育て拠点として、早期診断・治療および療育のシステムの構築。

○人工呼吸器の装着、胃ろうなどで、医療的ケアの必要な子どもが増加しており、また、成人期までの連続した医療ケアの提供が課題となっています。総合病院との連携を強め、病院機能の一体化を図りながら、効率的に先進的医療の取り組みを強化していく必要があります。

○経営状況は、収益、費用ともに増加傾向にあります。経常収支は、平成29年度から赤字に転じ、平成30年度は高額医薬品使用などの影響もあり、費用が大きく増高しています。

○病床利用率および平均在院日数等

	病床利用率	平均在院日数	入院患者実数	外来患者数
H21	71.2%	16.0	1,527	43,136
H22	71.9%	14.9	1,649	44,215
H23	68.8%	13.2	1,778	42,718
H24	71.4%	12.5	1,923	43,671
H25	71.8%	12.9	1,884	43,085
H26	69.6%	11.6	2,027	44,073
H27	75.6%	11.7	2,185	44,280
H28	73.2%	11.3	2,167	45,777
H29	66.2%	10.3	2,134	46,539
H30	67.2%	8.7	2,518	47,185

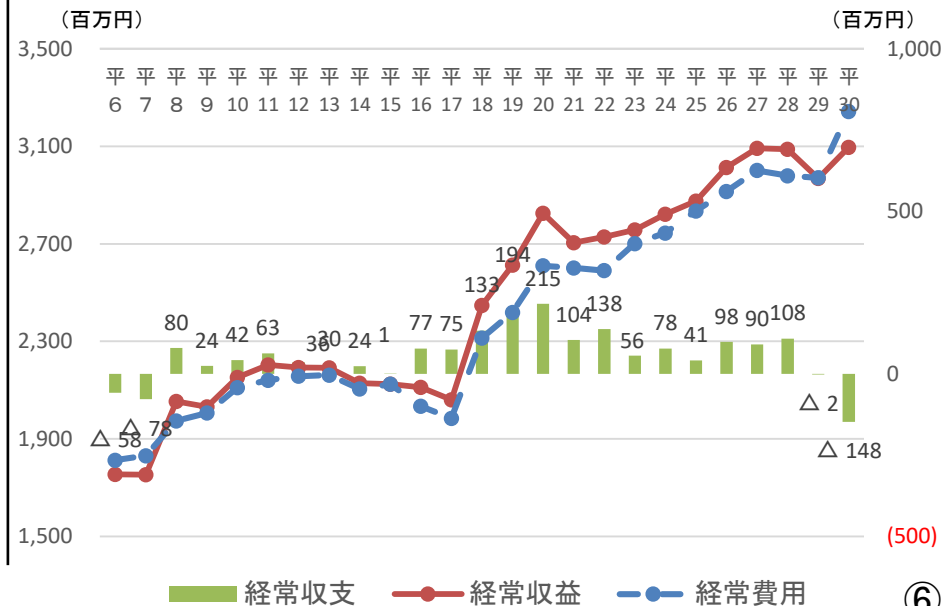
入院の平均在院日数は短縮されている。
平成30年度は短期入院患者が増加している。

○人工呼吸器装着入院患者数

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
人数	3,850	4,383	4,690	4,488	5,902	6,901	7,471	8,393

人工呼吸器装着患者が大きく増えている。

○経常収支の推移



精神医療センター が担っている役割・機能

○県内の精神医療を担う中核施設として、地域医療機関や保健所などの関係機関との連携のもと、思春期精神障害、アルコール依存症等の精神障害に対し、発生予防、治療および社会復帰までの一貫したサービスを提供し、政策医療や高度・特殊専門医療の充実を図る必要があります。

○また、精神科救急医療システムにおいて当番病院が応需できない場合に対応する後方病院としての役割を担うための応需体制の確保、医療観察法病棟の運営など、県立病院として求められるニーズに対応する必要があります。

○経営状況としては、収益、費用ともに増加傾向にあります。平成7年度以降、平成26年、平成27年を除き、黒字を続けていることから、引き続き安定的な経営を続けていくよう努めていきます。

○一方で、医師不足が喫緊の課題であることから、大学との連携強化に向けた積極的な働きかけを行い、必要な医師を早期に確保するよう努めます。

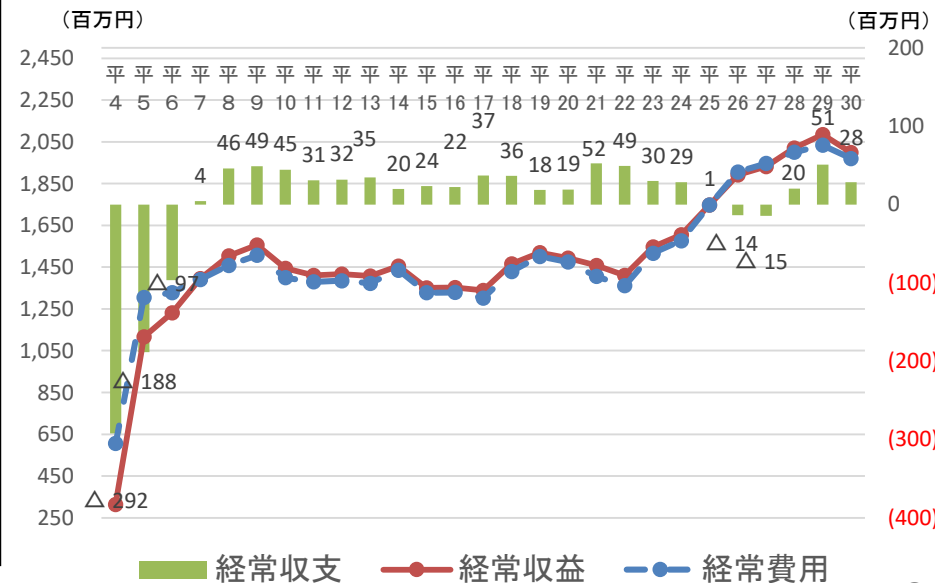
○患者数の推移

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
入院	301	282	272	301	322	346
アルコール等	72	80	78	65	87	99
統合失調症	102	80	75	91	82	91
気分障害	67	66	52	96	104	103
神経症等	15	18	25	18	14	12
発達障害等	7	11	13	10	11	18
その他	38	27	29	21	24	23
外来	13,415	13,098	12,793	15,749	17,285	16,757
アルコール等	2,307	2,250	2,157	2,309	2,467	2,556
統合失調症	3,554	3,572	3,470	3,710	4,030	3,999
気分障害	3,480	3,439	3,350	5,006	5,506	4,944
神経症等	1,722	1,555	1,544	1,882	1,886	1,926
発達障害等	458	533	567	999	1,269	1,372
その他	1,894	1,749	1,705	1,843	2,127	1,960

○病床利用率の推移

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
1・2病棟	75.8%	63.5%	66.1%	71.2%	75.6%	75.8%
3病棟	39.8%	87.4%	97.2%	95.5%	95.8%	91.1%

○経常収支の推移



県立病院における患者の状況(その1)

<総合病院>

主な診療科別・保健医療圏別の患者数

患者 診療科	県計	保健医療圏							
		大津	湖南	甲賀	東近江	湖東	湖北	湖西	県外 その他
血液・腫瘍内科	428	14	229	32	88	13	27	5	20
	割合	3.3%	53.5%	7.5%	20.5%	3.0%	6.3%	1.2%	4.7%
呼吸器内科	819	40	505	88	146	19	6	9	6
	割合	4.9%	61.7%	10.8%	17.8%	2.3%	0.7%	1.1%	0.7%
整形外科	803	57	492	54	132	18	2	20	28
	割合	7.1%	61.3%	6.7%	16.4%	2.2%	0.3%	2.5%	3.5%
消化器内科	1,494	60	1,114	75	168	36	3	29	9
	割合	4.0%	74.6%	5.0%	11.3%	2.4%	0.2%	1.9%	0.6%
循環器内科	1,333	48	984	90	144	21	3	25	18
	割合	3.6%	73.8%	6.8%	10.8%	1.6%	0.2%	1.9%	1.3%
呼吸器外科	356	10	218	21	72	29	0	3	3
	割合	2.8%	61.2%	5.9%	20.2%	8.1%	0.0%	0.9%	0.9%
泌尿器科	487	18	382	27	47	5	3	3	2
	割合	3.7%	78.4%	5.6%	9.7%	1.0%	0.6%	0.6%	0.4%
婦人科	769	42	373	62	112	115	13	33	19
	割合	5.5%	48.5%	8.1%	14.5%	14.9%	1.7%	4.3%	2.5%
放射線治療科	30	0	3	1	21	3	0	1	1
	割合	0.0%	10.0%	3.3%	70.0%	10.0%	0.0%	3.3%	3.4%
乳腺外科	156	13	82	22	23	8	2	5	1
	割合	8.3%	52.6%	14.1%	14.8%	5.1%	1.3%	3.2%	0.6%

院内がん登録数

(総数)	H25	H26	H27	H28
滋賀県(7施設)	6,159	6,261	6,685	6,856
県立総合病院	1,294	1,427	1,422	1,403
市立長浜病院	701	716	788	729
大津赤十字病院	1,433	1,428	1,476	1,409
公立甲賀病院	516	487	557	778
彦根市立病院	691	706	757	748
滋賀医科大学	1,524	1,361	1,524	1,567
高島市民病院	—	136	161	222

平成30年8月に国立がん研究センターから報告された「がん診療連携拠点病院院内がん登録2016年全国集計」から、滋賀県のデータを抜粋(下表も同じ)

主な部位別総数(H28年診断)

	大腸	肺	胃	前立腺	結腸	乳房
県立総合病院	174	210	153	112	113	159
市立長浜病院	48	148	50	65	34	72
大津赤十字病院	232	145	139	97	162	104
公立甲賀病院	145	91	96	63	99	61
彦根市立病院	122	70	91	59	87	69
滋賀医科大学	158	187	118	234	93	122
高島市民病院	53	28	27	23	37	15
計	932	879	674	653	625	602

医師数の不足している整形外科や婦人科、がん関係診療科(乳腺外科、放射線治療科等)を中心に、二次医療圏の患者割合が低く、県内全域から患者が紹介されてきていると言えます。

がん登録数の多い部位における登録数が多い傾向もあり(肺、胃、乳房)、拠点病院としての機能を発揮していると言えます。

県立病院における患者の状況(その2)

<小児保健医療センター>

主な診療科別・保健医療圏別の患者数(退院)

患者 診療科	県計	保健医療圏							
		大津	湖南	甲賀	東近江	湖東	湖北	湖西	県外 その他
整形外科	335	53	71	28	33	25	17	1	107
	割合	15.8%	21.2%	8.4%	9.8%	7.5%	5.1%	0.3%	31.9%
小児科	1,912	353	675	184	366	99	85	56	94
	割合	18.5%	35.3%	9.6%	19.2%	5.2%	4.4%	2.9%	4.9%
眼科	64	10	20	3	11	10	6	2	2
	割合	15.6%	31.3%	4.7%	17.2%	15.6%	9.4%	3.1%	3.1%
耳鼻い んこう科	202	28	75	19	41	15	13	10	1
	割合	13.9%	37.1%	9.4%	20.3%	7.4%	6.4%	5.0%	0.5%
リハビリテー ション科	20	4	2	2	7	1	0	0	4
	割合	20.0%	10.0%	10.0%	35.0%	5.0%	0.0%	0.0%	20.0%

年齢別入院患者数の推移

	～14歳		15歳～	
	患者	割合	患者	割合
H21	23,447	90.2%	2,537	9.8%
H22	22,433	85.5%	3,797	14.5%
H23	22,313	88.7%	2,854	11.3%
H24	22,583	86.6%	3,480	13.4%
H25	21,825	83.3%	4,384	16.7%
H26	20,854	82.1%	4,545	17.9%
H27	22,974	83.1%	4,686	16.9%
H28	22,772	85.2%	3,957	14.8%
H29	20,096	83.2%	4,061	16.8%
H30	19,652	80.2%	4,859	19.8%

小児保健医療センターにおける在宅機器利用者数(各年4月時点)

(人)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
栄養ポンプ	39	44	48	50	52	61
酸素濃縮	42	50	52	62	70	90
人工呼吸器	50	59	62	77	89	109
排痰補助装置	19	24	28	38	45	59
合計	150	177	190	227	256	319

主に難治・慢性疾患の専門医療を担っているため、県全域からの患者が来院しています。整形外科においては、県外からの患者が多く、全国から患者を紹介される状況にあります。

入院患者は、年度による若干の差異はあるものの、15歳以上の患者が、実人数および全体に占める割合ともに増加傾向にあります。

入院の動向と同様に近年、在宅機器利用者が急増しており、5年間で倍増、10年前と比べると5倍以上となっています。この状況から、重症患者が増加傾向にあるものといえます。

県立病院における患者の状況(その3)

<精神医療センター>

保健所別外来・入院診療実患者数(平成30年度)

	計	保健所							
		大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	県外 その他
入院	346	96	116	40	39	15	12	10	18
	割合	27.7%	33.5%	11.6%	11.3%	4.3%	3.5%	2.9%	5.2%
外来	16,757	4,473	5,928	2,061	2,261	736	373	410	515
	割合	26.7%	35.4%	12.3%	13.5%	4.4%	2.2%	2.4%	3.1%

アルコール使用による障害の患者数

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
入院	65	69	63	61	74	88
外来	2,051	1,990	1,852	1,957	2,045	2,102

医療観察法病棟(第3病棟)の府県別入院者数(令和元年12月1日現在)

	計	府県名				
		滋賀	大阪	兵庫	京都	福井
入院	21	9	8	2	1	1
	割合	40.8%	38.1%	9.5%	4.8%	4.8%

デイケア実施状況

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
通所者延数	3,205	3,770	2,851	2,707	2,904	1,974
1日平均	17.0	20.2	15.0	14.3	15.2	10.6
開催回数	188	187	190	189	191	186

入院診療状況(第1・第2病棟)

		H25	H26	H27	H28	H29	H30
入院 形態別	任意入院	175	166	170	178	172	181
	医療保護入院	108	99	87	101	127	134
	措置入院	17	11	11	3	21	24
	応急入院	1	4	3	18	2	3
	鑑定入院	0	2	1	1	0	4
	計	301	282	272	301	322	346
平均在院日数		90.1	82.4	88.5	88.6	84.5	80.7

任意入院以外の非自発的入院が増加傾向にあります。平均在院日数は長期入院患者の退院促進等により減少しつつあります。

保健所別実患者数は、入院・外来とも大津・草津保健所管内の割合が6割を超えています。

アルコール使用による障害の患者数が増加傾向にあり、当センターはアルコール依存症治療拠点機関に指定され、専門外来やリハビリプログラムに取り組んでいます。

医療観察法病棟の府県別入院者数は、本県と大阪府で全体の8割弱を占めています。

効果的な社会復帰を目指し、平成27年度からデイケア利用を3年以内とし、就労移行支援事業所等への移行を進めた結果、平成30年度の通所者は減少しましたが、満足度調査では85.7%の方に満足と回答いただいています。

今後の県立病院の果たす役割・担うべき機能

本日、意見交換していただきたいこと

【今後、県立病院に必要な機能・役割】

【医療機関としての使命】

【県立病院として何をすべきか(すべきでないか)】